

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4372200396		
法人名	社会福祉法人 熊本厚生会		
事業所名	グループホーム青海苑(東館)		
所在地	熊本県宇城市三角町郡浦739-5		
自己評価作成日	令和2年 1月 29日	評価結果市町村報告日	令和 2年 4月 30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号
訪問調査日	令和2年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

不知火海を一望できる静かな岬に位置していますが、集落とは離れている為できるだけ地域に出掛けるよう心がけています。苑庭の散歩やドライブ等に出掛けたりして季節を肌で感じていただくよう心がけています。誕生会などの行事にはご家族の参加もあり、敬老会では入居者のお好きなメニューを中心に手作りの料理を楽しんでもらっています。裏の畑には季節の野菜をつくり、入居者の方との収穫、散歩中には野菜の成長を楽しみに話しに花が咲きます。入居者のペースに合わせ、入居者の発する言葉、声にならない思いをくみ取り、理解し、入居者の方の今を大切に寄り添ったケアができるようにと取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

海を臨む高台に位置する事業所では四季折々の花や木々が目を楽しませてくれる。殆どが町からの入居者で、併設する他事業所の利用者だった方も多いため、昔ながらの生活環境を継続し、穏やかで和やかな生活が営まれています。日々の生活では、年間を通して他事業所との交流も行われています。入居者の高齢化もあり、日常生活で「役割」を持つことが難しくなっている様子が聞かれましたが、その中でもモップを持ち掃除をする方や、苑内の散歩中に季節の野菜を収穫し食事を楽しむ様子が窺えました。事業所では入居者と寄り添いしっかりと関わる時間を大切にされており、その対応が入居者の穏やかな生活に繋がっている様子を見ることが出来ました。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送りの後に理念を唱和し理念に基づいた実践ができるよう各自意識しながら取り組んでいる。	理念は毎日唱和し、業務中に度々目にする日誌の表紙にも記載していることで職員に浸透している。	職員の異動も少なく、入居者への寄り添いのあるケアの様子がうかがえました。次のステップとして、理念に対する思いやケアへの反映等について話合う機会を持たれることに期待します。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りや行事に参加したり、中学生の職場体験受け入れや、オカリナ演奏などボランティアを受け入れている。また、法人の地域清掃にも参加している。	入居前の住まいそれぞれの地域行事に出来るだけ連れて行き、入居者と地域の関わりの継続に取り組んでいる。事業所としては保育園児の来訪や行事への参加、職員の地域施設の清掃参加等を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人で年1回秋祭りがあり、地域の方にも足を運んでいただけるよう取り組んでいる。ボランティアの来られた方や面会者など認知症についてのお尋ねに応えるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の住民代表や行政にも参加していただき地域の情報や事業所の情報発信など情報交換行っている。避難訓練を年1回は委員の皆さんに見てもらい、取り組む姿勢を伝えるようにしている。	併設の小規模多機能事業所と合同で隔月で開催しており、日頃の様子を積極的に伝えている。避難訓練の様子を見てもらう取組は参加者の「避難の様子が見えづらい」の声から始まった取組みである。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に欠かさず参加していただいている。	運営推進会議には地域包括支援センター又は市いずれかの参加があるため、事業所の様子や取組みを積極的に伝えている。日常的な報告・連絡・相談等により協力関係の構築に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部の勉強会に参加し伝達講習があり、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。ホームも日中施錠せず解放されている。	身体拘束を行わないケアを基本としている。職員は外部研修にも参加しており、事例や他の取組み等も含めた研修内容は、職員会議時に共有している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	相談会や勉強会で虐待や不適切なケアのないケアを徹底している。日頃から入居者を尊重し対応に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学んだことをスタッフ間で共有しながら制度について理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分に説明行っている。入居後にも不明な点があれば面会時等にご家族ともお話ししながら気軽に疑問をぶつけて頂ける関係作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に会議を行い意見交換、勉強会を行っている。	面会時や事業所行事への家族参加を機会に意見・要望を聞く機会としている。感染症流行時期等は面会が難しい環境もあるので、毎月のおたより作成や電話連絡等で家族との関係が薄くならないよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	行事等に参加していただき、生活の様子を少しでも見ていただけるよう努めている。コミュニケーションを図りながら、要望などあればスタッフ間で共有し取り組むよう努めている。	管理者が常駐しケアにも関わることから、職員はいつでも意見や提案を述べる機会を持つ他、定例会議時にも意見を出し合う機会を持っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務スケジュール作成前に全スタッフに希望をききできるだけ希望を取り入れた勤務表作成を行っている。勤務変更も支障がない限り受け入れている。有資格者には手当もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修にはできるだけ多くの職員が参加できるよう配慮し勤務調整している。会議での伝達講習がある。法人企画の勉強会もあり参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック会企画の勉強会などに参加している		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人に寄り添い安心して生活できるよう支援に努めている。事前にある情報に目を通し1人1人の歴史を大切にしながら対応するよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に事業所の見学をしてもらったり、不安なことや困られていることをスタッフ間で共有するようにし不安の軽減に努めている。家族来苑時にはコミュニケーションをとり、本人、家族の要望に耳を傾けるよう取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際に本人、家族の思いに寄り添えるよう法人内のサービスについても説明を行いニーズに合ったサービス選択ができるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは一緒にに行い信頼関係を築きながら役割作りに努めている。1人1人の出来る事の継続を生活の中で取り組んで頂きながら関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時には家族でゆっくり過ごしていただけるよう環境作りに努めている。行事参加声掛けし可能な限り家族、本人と一緒に過ごせる時間ができるよう取り組んでいる。ホームでの様子を毎月のお便りで知らせている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事や祭りに参加し地域の方と交流する時間の確保に努めている。体調に合わせながら自宅に帰ったりご家族と外出したりする時間を作るよう取り組んでいる。	家族との関わりを第一に考え支援している。入居者に馴染みのある地域行事への参加も継続している。併設する小規模多機能事業所を利用していた入居者も多いので、入居者同士が馴染みの関係性が出来ている環境でもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなど参加声掛けし、一緒にの時間を楽しくするよう支援に努めている。食卓と一緒に囲み楽しく食事がとれるよう環境作りしている。ドライブや散歩など気の合う方同士を誘ったりいい関係が築けるよう努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族代表で運営推進委員を務めて頂いた方にご家族が亡くなられた後も委員として残っていただき地域の方の立場として意見をいただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	関わりを持ちながら本人の意向の確認に努めている。アセスメントを活用しながら本人の思いを大切に、意向を反映した対応をできるように取り組んでいる。	事業所の取組みとして、職員が入居者として関わりを持つ時間を大事にしておき、入居者に寄り添い日々の会話から思いや意向を把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前の書類だけでなく、本人、家族ともコミュニケーションを図りながら会話の中から情報対応の手掛かりになることを引き出せるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活のリズムの継続や、関わっていく中で言動・反応を見ながら本人の思いを尊重できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行いながら担当者が中心となり、ご家族・本人の意向、希望を聞きながら計画作成を行っている。	入居者の担当職員が中心となり、他の職員や入居者・家族の意向も取入れ介護計画を作成している。日々の様子は3ヶ月毎に家族にも報告している。半年毎に担当者会議を開催し、家族にも報告している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアに当たる中で気づいたことや変化がスタッフ間で共有できるように努めている。言動の変化や健康状態など記録に残しケアに反映させケアが途切れないよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や買い物などご家族にも協力していただきながら対応している。本人、家族とコミュニケーションを図り状況に合わせた対応ができるよう努めている。		

グループホーム 青海苑

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のお祭りに参加し、中学生の職場体験や保育園児との交流会は入居者の癒しとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医となっており、定期的受診は家族で対応されている。受診時必要な情報は事前に準備し情報提供している。	入居前からのかかりつけ医への定期的な通院は家族に協力をお願いしている。車椅子利用等で家族介助が難しくなった際には、往診が可能な協力医へ移行されるケースもある。急な体調変化等には職員による通院介助も行う。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の状態変化等は看護師に連絡し状態に応じて主治医につながるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院でのカンファレンスに参加したり、入院時にさまりーを準備したり情報提供している。入院中にも面会に行き、状態把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態に応じ家族と今後の対応について、意向について確認する機会を設けている。意思確認、方針の確認しながら看取りに取り組めるようにしている。	重度化や終末期についての指針を入居時に説明し同意を得ている。実際にその時を迎えた際には再度説明し、状態変化の都度、家族等の意向を確認しながら対応している。医療連携もあり、協力医からの往診も受けながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の勉強会の中に消防署に依頼して救急蘇生法の勉強会が組み込んである。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。	年2回の避難訓練のうち1回は運営推進会議開催に合わせ、状況を地域住民や家族にも見てもらっている。訓練は併設する小規模多機能事業所と合同で行っている。	

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々のかかわりの中で1人1人に合わせた対応を心がけている。丁寧な言葉使いを心がけている。	職員と入居者の関わりの中で、今は心配される事例は無い。人としての尊厳を尊重することは法人理念にも詠われており、実践に繋がっている。入浴やトイレ介助は希望により同性介助も行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が困難な方にも声掛けしながらその方の表情、仕草などから本人の思いや希望を理解できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者最優先を心がけ、一人一人のペースを大切にし入居者の希望に沿った対応を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	気温や好みに合わせて衣類調整支援している。化粧が日課の方はセッティングしたり、自力で困難な方にはスタッフが手伝っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好き嫌いを把握し苦手なものは違うものを提供したりして対応している。誕生日には本人希望のメニューを準備し外食も不定期で計画している。	職員による献立で手作りの食事を提供している。季節の食材や、敷地内の畑で収穫された野菜をふんだんに用いている。入居者それぞれの誕生日には希望メニューで祝う。出来る範囲での手伝い等も継続している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の病状や体調に合わせた栄養・水分摂取ができるよう努めている。摂取能力に応じた形態で提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の確認や出血の有無を確認し、月に一度は歯科衛生士による口腔ケア指導を受けながら口腔ケア実施している。		

グループホーム 青海苑

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できるよう排泄チェックを活用しながら排泄パターンの把握に努め排泄の自立に向けた支援を行っている。	昼間は、オムツ使用であっても座位が保てる場合はトイレでの排泄を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、野菜を食事ですっかり補給できるよう支援している。水分はお茶以外にも本人の好みのものも提供している。苑庭や室内歩行、体操の声掛けなど適度な運動も取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	自分で決定できる方については希望に応じて行っている。体調見ながら入浴介助を行っている。拒否がある場合は声掛けの時間をあけたり、日程を変えたりして対応している。	1日おきを基本とし希望があればいつでも入浴できる。2ユニットのうち1ヶ所に機械浴も設置されており、椅子での入浴が可能である。希望により同性介助も対応する。出来るだけ入居者の力を損なわないよう安易な手伝いは行わない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人の習慣に合わせて、疲労感や足の浮腫軽減の為休む時間を作っている。天気のいい日には寝具を干して安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その方の状態に合わせて支援できるよう努めている。個々の薬はファイルに綴ってあり、スタッフはいつでも確認できるようになっている。処方変更時には看護師が中心となり状態把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	これまで楽しまれていたことは継続できるよう支援している。家族、本人とコミュニケーション図りながら役割をもって過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや散歩で外に出ており楽しめている。普段の会話の中からドライブや外食先を決定している。体力的にドライブ等が難しい方については苑庭散歩にて季節を感じていただけるよう支援している。	苑内には四季折々の花木や花、敷地内から海を眺めることが出来る遊歩道があり、畑の野菜の様子を楽しんだり外気を感じることが出来る日常生活である。感染症が心配される時期は車の利用も控えているため、なるべく園庭に出るようにしている。	

グループホーム 青海苑

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を自分で持っている方もいるがほぼお小遣いを預かり出納帳を作り家族に面会時に確認してもらっている。週一回はコンビニカーが来るのでお菓子を買いに行ったりされる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時には自宅に電話をとりついたり、手紙を書かれた場合には老健のポストに投函しに散歩がてら行ったり支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに室内を飾りつけしたり、季節の作品づくりに取り組んでいる。こまめに掃除・換気を行い清潔に努めている。	清潔を第一としている。換気には特に注意しており、寒い時期にも窓を開け換気するようにしている。車椅子の利用も増えてきたため、整理整頓にも心掛けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	1人1人に合わせた居場所作りに努めている。リビングでお気に入りの場所できつろいで過ごしたり、気の合う方と雑談できるような環境作りにつとめている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使われていた家具などを持ち込み、居室には家族の写真などを張り楽しめるようにしている。本人の状態に合わせて家具の配置の検討が必要な場合は本人と相談しながら過ごしやすい環境作りに努めている。	ベッドが備えられた居室には、以前から使用していた家具等が持ち込まれている。入居者によっては写真や趣味の作品を飾る等、生活の様子を感じる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室入り口には表札をかけ、トイレなども表示を大きくしわかりやすく行けるよう工夫している。日々の状態を考慮しつつできるだけ自立した生活を送れるよう取り組んでいる。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム青海苑

作成日 令和 2年 4月 30日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	19	家族との信頼関係作り。 現在、面会等を制限して いるためご家族と直接話 せる機会が減っている	情報発信	毎月発行のお便りはより細か く伝わるよう作成する。電話 等で状況を報告し、安心して いただく。窓越しの面会や電 話など入居者との関係性が保 てるよう環境や機会を作るよ う努める	3か月
2	35	毎月、緊急時使用備品 (懐中電灯、電池、備蓄 食品の期限) チェックを 行っているが忘れている 月がある	毎月確実にチェックを実 施し非常時にどの職員で も必要備品を使用できる	日にち、担当を明確にし 漏れがないよう実施する	3か月
3	49	入居者間のADLに差が あり、入居者が一斉に外 出する等の機会が減って いる。	入居者一人一人の希望や 状態に合わせた支援	個別、少人数ずつで体 力、状態に合わせた外出 支援を行う	12か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。